

承認番号	4203
研究課題名	弓部大動脈瘤および急性大動脈解離に対するJ Graft FROZENIXを用いたTotal Exclusion of Non-Stent part of FROZENIX with Everting interpolation anastomosis (TENSE) techniqueによる上行弓部置換術の成績
研究の意義・目的	弓部大動脈瘤、急性大動脈解離に対してJ Graft FROZENIX(Open stent graft)を用いたFrozen elephant trunk法による上行弓部置換術が行われるようになり良好な成績が報告されている。しかしながら、Open stent graftの屈曲・狭窄や末梢吻合の困難さが問題となっている。Open stent graftの屈曲はnon-stent partとstent partの間で起こっており、またnon-stent partが残ってしまうことで襞状になりgraftの良好な展開が得られないため吻合に難渋する。そこで屈曲の予防及び末梢吻合を容易にする方法としてnon-stent partを完全に除去したTotal Exclusion of Non-Stent part of J Graft FROZENIX with Everting interpolation anastomosis (TENSE) techniqueによる上行弓部置換術を行っており、その成績を評価し、今後の手術成績の向上に貢献することを目的とする。本研究では、あなたにとって最も適切な医療を提供した結果としての診療情報又は試料の収集により得られた情報を利用する研究です。
研究を行う期間	承認後 ～ 2022年12月31日
研究対象者の範囲	当院において2017年4月1日から2021年3月31日の間で、急性A型大動脈解離あるいは弓部大動脈瘤に対してFROZENIXを用い、TENSE techniqueにより上行弓部置換術を施行した患者を対象とする。データはカルテより取得する。
お願いする内容	<p>□大阪市立大学医学部附属病院のみで研究いたします。</p> <p>術前、周術期の血液、検査データ、診療記録等</p>
頂いた試料・情報の管理について責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 心臓血管外科 教授 柴田 利彦
この研究を行っている施設（共同研究機関）	大阪市立大学大学院医学研究科 心臓血管外科 教授 柴田 利彦
代表施設のURL	http://www.med.osaka-cu.ac.jp/ocum-surgery/index.html
研究の成果を公表する方法	研究成果は研究対象者を特定できないようにした上で学会や学術雑誌等で公表する
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への参加を拒否できます。また、研究への参加を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	受付方法：大阪市立大学附属病院心臓血管外科外来(Tel:06-6645-2121)、大阪市立大学大学院医学研究科心臓血管外科 担当者：森崎晃正(Tel:06-6645-3980)。